

2020 年 5 月 27 日

担当者: 桂野

## コロナ禍で、国内の油脂需要構造に大きな変化

コロナ禍の中、油脂の需要構造にも大きな変化が生じている。政府は4月16日に緊急事態宣言の対象地域を全国に拡大。2月後半から売上げ減に見舞われていた外食産業は、さらに大きな打撃を受けている。油脂卸筋は「3月はまだ対前年同月で2割ほどの売上げ減にとどまっていたが、4月は半減している」と、苦しい胸の内を吐露。関係筋によると、顧客にホテルなどを抱える外食卸などはさらに状況は厳しく、売上げは半減以下に落ち込んでいるとされる。

外食産業のダメージは日を追って深刻化しており、それに伴って製油各社の業務用（斗缶）出荷も減少傾向が強まっている。一方で、巣ごもり需要、内食化によって家庭用、加工用は3～4月と好調。家庭用については、一部で欠品する局面も見られる。加工用も冷凍食品や即席麺、パンなどの需要が堅調で底堅い。ただ、トータルで考えると、外食向けの落ち込みをカバーし切れるものではない。

動物油油脂も同様に、即席麺やカレー油向けなどを中心にラードや牛脂の需要は堅調な動きに終始している一方、外食の落ち込みが激しく、動物油脂の需給動向は不透明感が強い。一方で、供給面は外食向けの牛肉需要が大きく落ち込んでいることから、牛のと畜頭数が減少。速報ベースで、4月のと畜頭数は前年同月から1割ほど減っており、豚脂だけでなく、今後は牛脂の供給もタイト化する可能性が指摘されている。外食産業の売上げ減は、飼料用油脂の需給にも大きな影響を与えそう。外食産業から発生する回収油の量が減少しており、飼料向けの供給に引き締め感が生まれてきている。ただ、これまではBDF向けとしての輸出需要が好調で、需給バランスがとれていた経緯もある。原油相場の下落でバイオ燃料の採算は悪化していることから、今後の欧州向けの輸出需要がどうなるのか、国内外の需給について、一層の注視が必要となっている。



# ウメモト インフラオメーション



2020年 5月 27日

担当者: 石崎

## 菜種1カ月ぶり安値

### NY先物 大豆の価格下落受け

食料油の原料になる菜種の国際価格が下落している。指標となるニューヨーク先物（期近）の25日終値は1斗460・20ポンド。直近の高値をつけた20日から2・6%下落し、1カ月ぶりの安値となった。

同じ食料油原料である

大豆の国際価格が下落したのに連れて安くなった。米中对立が中国の米国産大豆の買い付けに響くとの懸念から売りの展開となり、指標となるシカゴの大豆先物（期近）は前週末、軟調に推移した。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

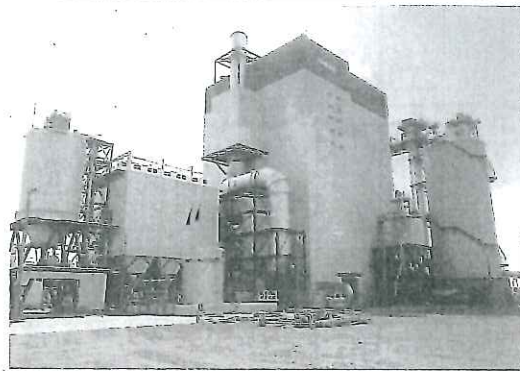
化学工業日報

2020 年 5 月 27 日 担当者: 小松

## 室蘭市で国内最大規模 バイオ発電所 商業運転開始

JXTG

は、JXTGエネルギーは、ENEOSバイオ



商業運転を始めたバイオマス発電所。夜はライトアップ

マスパワー室蘭（北海道室蘭市）の室蘭バイオマス発電所（発電容量7・49万キロワット）が24

エネルギー固定価格買取制度（FIT）を活用して売電する。同社は2016年10月11日、JXTGエネルギーが90%、日揮ホールディングスが10%を出資し資本金1億円

日から商業運転を開始したと明らかにした。JXTGエネルギーが主体になって運営する初めてのバイオマス発電所。発電した電気は再生可能エネルギー

で設立。約4万平方メートルの敷地に、パーム椰子殻を燃料にする木質バイオマス専焼の発電所を建設した。発電設備は循環流動層ボイラー、再熱式復水タービンで構成する。木質バイオマスだけを燃料にする発電所としては国内最大規模で、環境保全に配慮した高効率な運転が可能としている。室蘭市からの要請を受け、同発電所は25日から、日没から午前0時までの間、ライトアップを行い、地域の発展と活性化に協力していくとしている。



# ウメモト インフラオメーション



2020年5月27日

担当者: 岩崎

## 出光興産 赤字229億円

### 前期最終 原油評価損膨らむ

出光興産が26日発表した2020年3月期連結決算は、最終損益が229億円の赤字だった。19年4月に経営統合した昭和シェル石油との2社合算の前期(945億円)の黒字)に対し、大幅に業績が悪化した。原油価格の急落で在庫評価損が膨らんだほか、新型コロナウイルスの影響で石油製品の需要が減少した。

木藤俊一社長は同日、記者会見し、今後も「ガソリンやジェット燃料の需要減が続く」と厳しい見方を示した。前期の売上高は12%減の6兆458億円、営業損益と持ち分法投資損益を合わせた本業ベースでの損益は262億円の赤字(前期は2291億円)の黒字)だった。燃料油部門は1094億円の

赤字(前期は798億円の黒字)。在庫評価引き下げて約900億円の損失を計上し、ガソリン販売の利幅も縮小した。基礎化学品部門の利益は8割減の119億円だった。中国での需要低迷を受けステンモノマーなどの採算が悪化した。年間配当は従来予想通り、前期に比べ60円増の160円とする。

同時に発表した21年3月期の最終損益は50億円の黒字を見込む。在庫評価損が無くなる影響が大

低迷は続き、厳しい状況は続く。売上高は前期比35%減の3兆9000億円を見込む。年間配当は未定とした。

これで石油元売り大手3社の決算が出そろい、20年3月期の連結最終損益は3社とも赤字だった。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



# ウメモト インフラオメーション



2020年5月27日

担当者: 岩崎

## サウジ改革、ファンド頼み

### 8000億円投資 米欧大型株底値買い

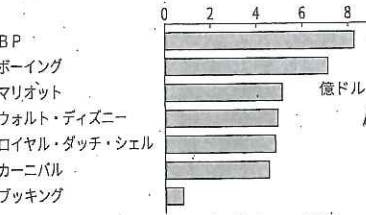
1~3月

【下バイ】敗部秀光― 道な産業育成などを進ら  
世界屈指の政府系ファンドであるサウジアラビアのパブリック・インベス  
トメント・ファンド（PIF）が、米欧の石油会社や金融機関などに大型投資を発行したことが明らかになった。新型コロナウイルスの打撃から業績が早期回復するとの判断から、株価急落局面での「底値買い」に動いたもようだ。ただ、PIFに傾斜した改革姿勢は地

道な産業育成などを進らせる懸念もある。米証券取引委員会（SEC）の開示資料によると、PIFは1~3月期に23社の株式を合計77億米ドル（約8000億円）分を投資した。PIFは米配車サービスのワーバーテクノロジーズの大株主で、ソフトバンクグループの「ビジョンファンド」にも大口出資したことで知られる。これを成長著しいベンチャーへの投資戦略の軸に据えてきた。ただ、新型コロナウイルスに

弱く、3月時点で保有している約7億米ドル分の米ボイニング株を取得したほか、米シティグループや米バンク・オブ・アメリカなど金融大手の株にも投資した。PIFの投資行動の背景には、新型コロナウイルスの感染拡大が収束に向かえば世界経済は再び成長に向かうとの見方がある。実際、各国政府による資金繰り対策や金融緩和の支えもあり、主要国

サウジのPIFは米欧大型株への投資を加速



ムハンマド皇太子はサウジ改革の旗振り役だ。ロイター

つて人々の生活様式や消費行動が変化し、高い成長が見込めるベンチャー企業を見極めることが難しくなっている。投資環境の激変を受け、PIFは実績や知名度のある各国の大型株への投資にも手を広げた。短期的な利益追求に加えて、サウジの戦略を反映した投資案件もある。1~3月期に取得した銘柄リストのなかには、観光やエンターテインメント関連も多かった。

ウォルト・ディズニーやホテルチェーン大手のマリオット・インターナショナルの株式にはそれぞれ約5億米ドルずつ投資。クルーズ船運航のカーニバルやホテル予約サイトブックキング・ホールディ

ングスの株式も取得した。上場株式以外でも、英レジャーのサックラフ・ニューカッスル・ユナイテッドの買収に名乗りを上げた。サウジの美力者ムハンマド皇太子は「石油に頼らない国づくり」を軸とする経済改革を進めており、西部の紅海沿岸に未来都市を建設する「NEOM」構想などを掲げている。観光関連やエンターテインメント企業への投資は、事業は生み出していない。

の誘致など成長戦略の一環とみられる。ファンドを通じた活発な投資活動にスポットライトが当たるなど対照的に、経済改革そのものは観望されてきた成果は生み出していない。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報